



人と人との触れ合いの原点だと思いますが、解決のハードルはとても高いものになったようです。

## 恩師の教え「忍」

香川県善通寺市 宮脇文雄（95歳）

30歳過ぎの小学校の同窓会には二十数人が参加したが、恩師は一人一人に語り掛けてくれた。

「宮脇君、君は今下つ端でいるが、やがて人を使い、組織の長になるだろう。しかしその道は平たんではなく難路の連続だと思え。それを持ち切る方法は「忍」だ。忍という字は刃やいばの下に心と書く。頭を持ち上げると斬られる。何事にも、歯を食いしばって耐えろ。「成らぬ堪忍するが堪忍。命まで取られることはない、安心しとれ。しかし決して人を恨むな、仇心あだを持つな。君ならできる。きつと守るのだぞ」。

当時、私は事務員数人の小さな職場に勤めていたのでピンと来ませんでした。40歳を前に、100人を超える職場に転勤。数年後、先輩から「君は昇任候補に入っていた。しか

し君は今まで経験したことがなくても、ほかの者は競争していた」と語って、「天知る地知る我知る人知る」捨てる神あれば拾う神あり。君は長になる人だ。くよくよせずに大きな気持ちを持って」と激励してくれた。

最後に経験したのは、恩師の教え通り。親しい同僚は「あなたは仏様のような人だ。悪く言うと、井の中の蛙大海を知らず。あなたの言うことは正論だが、通用しない。辛抱しろ」と。

退職後、地区内でいろいろとお手伝いをさせていただいた。己を捨てて人を立て、目配り気配り思いやりに留意して、批判は当然と受け入れながら十余年続けた。

毎月行っている先月の同窓会で、「苦労は多かったが今はひ孫までいて、何の心配もないだろう」と友人に言われた。そこで「行きつけの店の女将おかみが最初はパパと呼んでいたが、次第に呼ばなくなつた」と私。「若いな」と友人が言った。それからが大変だった。耳が遠いので大声でエツと聞き返す。聞いて言つて大笑い。離れた席の女性数人がこちらを見て笑っている。今日は久方ぶりに大いに笑つた。ありがとう。100歳を目指して乾杯。

「来月、また会おう」と言つて別れた。

## 純米酒「鳳陽」

宮城県寛谷市 横堀弘言（72歳）

酒屋万流さかやばんりゅうという言葉がある。酒造りには蔵独自の造り方や作法があり、醸された酒もまた蔵ごとの味わいがあるという意味である。良き伝統を育む一方、固執し過ぎれば時流に取り残されるから難しいといわれている。

5月24日に発表された「令和4酒造年度全国新酒鑑評会」(以下、鑑評会)では、出品点数818点中、金賞を受賞した酒は218点となった。都道府県別では山形県が20点と最多で、9年ぶり3度目の日本一に輝いた。

私の住む富谷市には、創業寛文元年(1661)と、宮城県最古の造り蔵がある。私の一押しおしの酒が、純米酒「鳳陽」ほうよう。鑑評会では金賞を3年連続で受賞した、味にこだわる少量生産の高級酒で「地の味」として高い評価を得ている。「鳳陽」は故事にあやかり、「家運の隆盛」を願つて名付けられたという。酒造りのモットーは「一度飲んだら、また飲みたくなる酒」。喉ごしが良く、すっきりした味わいが特徴。ぜひ、一度ご賞味ください。